

ありて

わたしの未来はわたしが創る

2016.3
15号

特集 現代の子どもを取りまく環境 ……p2

- ・学童期の子どもを持つ保護者の座談会
- ・子どもと地域住人のかかわり
- ・スクールカウンセラーにインタビュー

子育てについてのサービスを紹介

- 子育てパパ・ママへの推薦図書の紹介 ……p5
- セピア色の写真から／幸塚 サヨ子さん ……p7
- センター活動登録団体紹介 ……p8
高岡市の取り組み ほか

「ありて」は自分の力で問題を解決していくイギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公の名前です。

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7
(ウイング・ウイング高岡6階)
電話／0766-20-1810 FAX／0766-20-1815
E-mail／gec@city.takaoka.lg.jp
ホームページ／
<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>



特集

現代の子どもを取りまく環境

高岡市では、家庭生活や仕事、地域活動等における平等な参画とそれらが両立できる環境の整備に取り組んでいます。家族、学校のみならず、各関係機関や地域の人々の理解と協働を得て、子育てを社会全体で支えていく子育て環境づくりをめざしています。今回は「現代の子どもを取りまく環境」をテーマに、家庭や地域、学校での取り組みを紹介しながら、男女平等・共同参画について考えてみました。

▼仕事をしながら小学生のお子さんの子育てをしている3名から、座談会形式で話をいただきました。

(場所：市内の放課後児童育成クラブ室)



■座談会に参加していただいたお母さん

Mさん 30歳代 パート勤務 お子さん3人
 Oさん 30歳代 正規職員 お子さん1人
 Tさん 30歳代 正規職員 お子さん2人

学校で教えてほしいこと

M 社会問題にもなっている携帯電話やスマートフォンなどのつきあい方です。仕事をしていると、帰宅してから家事など忙しく、スマホやゲームの仕方についても教えなければと思います。ついおろそかになってしまいます。集団生活の中で、人との距離の取り方が下手な子どもも多くなっていると聞きますし、先生方も大変とは思っていますが、学活や道徳の時間などを利用して教えていただければと思います。

O 小学3年生ではほとんどの子が携帯型ゲーム機を持っているようです。友だちと遊ぶといってもそれぞれがゲームをしている。今は事件とか心配だから「外で遊んできなさいよ」と、気軽に言えないところもあります。

M 学校ではゲームについての決まり事はありませんか？

T 学校の決まりはないですね。我が家ではゲームは1日30分の上限にして、しかも宿題とピアノをしてからゲームをするように決めています。

学校で新聞を読む授業があったらいいと思います。例えば子ども新聞などを活用して、10分程度でも社会のことについて解説してもらえたら、子どもたちも政治に対す

る関心を持てるのではないのでしょうか。国では今こういうことを進めようとしていますとか、世の中の様子とか。

M 家では子どもにテレビをとられて、なかなかニュースを見ることができません。アニメとか子ども番組とか。あとDVDも安く借りられるので…

T 家庭では、親もなかなか余裕がなく…。やっぱり新聞を使って学校で教えてほしいと思います。家に帰っても仕事で疲れて子どもとゆっくり話ができない。ご飯の用意をしたらもうぐっったりで、9時過ぎに「寝るよ」って子どもに促さる感じです。

家庭で教えてほしいこと

T 掃除・洗濯・炊事。いずれは親離れをしなくてはいけないので、自分のことは自分でする、という自立心です。それと金銭感覚と、自分の身を守る防犯についての教育です。あと、地震が起きたらまずテレビでどんな地震が起こっているか確認し周りの様子を確かめてから、避難袋を持って避難場所に走りなさいと教えています。

子どもは小学3年生と1年生の女の子ですが、時間の余裕があるときには一緒に買い物に行ったり、一緒にご飯の準備をします。最初はすぐ手間がかかりますが、忍耐強く教えています。生きていくために必要なことは、家庭



病児保育室「おひさま」

JCHO高岡ふしき病院
 高岡市伏木古府元町8-5
 専用TEL 080-5853-8500
 月曜～金曜 8:30～17:30
 対象年齢 生後9週～小学6年生



子どもが病気のため登園登校できず、家庭でも看病が困難な事情がある場合に病院内の専用スペースで預かる。事前登録、前日利用予約(原則)が必要。

マイ保育園

育児に対する不安感や負担感を解消するために、妊婦さんやおむね3歳未満の子どもを持つ保護者の方が身近な保育園に登録することで、育児体験や育児相談、保育士からのアドバイスなど様々なサービスを受けることができる。気軽に行ける保育園に登録し、身近なかかりつけの保育園として利用できる。

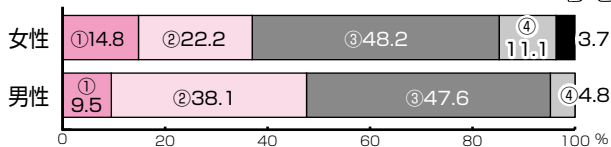


子育てについてのサービスを紹介します。

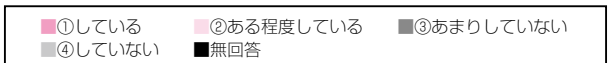
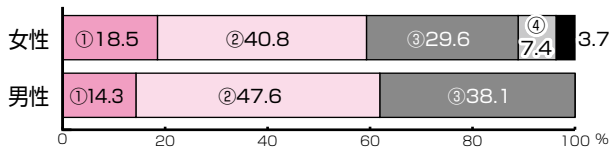
アンケート調査をしました



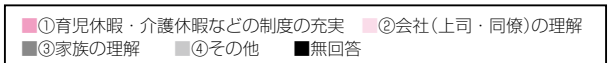
Q. 夫婦で家事を分担していますか？ (%)



Q. 夫婦で育児を分担していますか？ (%)



Q. 仕事も家庭も充実させるために必要なことは何だと思いますか？ (複数回答あり) (%)



アンケート調査 平成27年実施
(対象：定塚校下児童育成クラブを利用している児童の保護者)

T 住民運動会などは、昔は数少ない娯

地域で学んでほっとライン

で教えています。あと「他人に迷惑をかけてはいけない」とかも。でも厳しく言い過ぎると、他人を頼ることはできなくなってしまうから「自分でこれ以上はできないって思ったら、友達に相談しなさい」と、教えています。「悩んだらお母さんにも相談しなさい」とも。姿勢を良くすることと時間を守ることも大事ですね。

Q 我が家の場合は「嘘はつかない」「お友達は大事にする」「自分ひとりじゃないよ」などです。うちはひとりっ子なので、どんな形でも頼れる人を見つけてほしいと思います。

M 男女平等が大切なのはわかっているんですけど、夫の方が明らかに労働時間は長いので、手伝ってもらって

家族の協力

楽しいひとつとして町ぐるみで参加していたように思いますが、今はどうなのでしょう。

Q みんな仕事をしているし、地域の行事に積極的に参加するのは難しいこともありますよね。

T 児童クラブはあった方がいいですね。地元の子どもとかかわれる少ない機会だし。地域ぐるみで「地域の絆」にもっていかないと、防犯や防災につながらない。最後はやっぱりお互いの助け合いだと思えますから。

【座談会を終えて】
皆さん、やらなくていけないことをこなしていくだけで毎日一杯だと話されていました。多忙な日々の中、いろいろ工夫したり、家族で協力したりしながら、仕事や子育てに奮闘しているお母さんたちは、とても頼もしく見えました。「子どもはいつか大きくなる、悩みは尽きないけれど、みんな頑張って乗り越えよう」と、最後は晴れやかな笑顔で座談会を終えました。座談会に参加していただいた方々、アンケートに協力してくださった皆様、ありがとうございました。

るけど強くは言いにくいですね。

T 帰ってくるのが夜中の一時、2時の夫に、これ以上何かしてほしいとは言えないですよ。「ごみを出してください」しか今は言えないですね。日本は働かせ過ぎだと思っています。

Q 残業が美学、みたいなどころもありますよね。効率的に働いて早く帰る人の方が評価されるべきですよね。それに必ずしも出世がいいことに思えないんです。

M 今は「男性も育休をとりましょう」と言われているけど、実際男性が育休をとったら「奥さんはなにしているの？」って雰囲気になると思います。

Q うちの母が近くに住んでいて、時間に余裕がある時は子どもをみてもらっています。親の助けがなかったらどうなるのだろう、っていうも夫婦で話っています。

24時間子供SOSダイヤル

TEL 0570-0-78310
子供や保護者などが全国どこからでも夜間・休日を含めて24時間、いつでもいじめやその他のSOSをより簡単に相談することができるよう、全都道府県、指定都市教育委員会で実施。児童相談所・警察・いのちの電話協会・臨床心理士会などの相談機関と連携協力している。

高岡市少年育成センター「少年なんでも相談所」

相談専用ダイヤル 0766-20-1653
相談員による相談・面接相談 月曜～金曜 8:30～17:15
臨床心理士による面接相談(要予約) 火曜・木曜 10:00～17:00
青少年本人や保護者、先生などからの様々な悩みについての相談に専門相談員や臨床心理士が電話や面接で応じている。

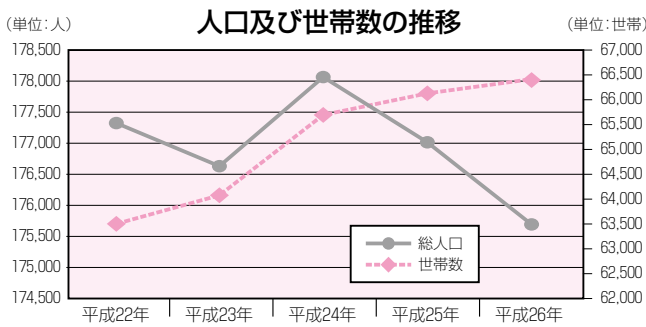
チャイルドライン

TEL 0120-99-7777 (全国フリーダイヤル)
月曜～土曜 16:00～21:00
18歳までの子どもの心を受け止める子ども専用電話。



子育てほっとライン

TEL 076-433-4150 月曜～金曜 10:00～21:00
保護者が子育ての不安や悩みを相談できるよう富山県教育委員会で実施している。



資料：高岡市 各年12月31日現在
 ※平成24年7月の住民基本台帳法改正により同年以降の数値には外国人を含む。

高岡市では近年、人口が減少傾向にある中で、世帯数は増加し、1世帯における家族の構成人数は2・6人と核家族化が進んでいます。こうした中、家庭や学校のみならず、地域とのかかわりが子どもの成長にとって、とても大切な要素となります。子どもたちの将来必要な能力や資質を養い、その健全育成を助けることが地域に求められます。様々な取り組みを通して、子どもたちとかがわっている人たちに話を聞きました。

子どもと地域住人のかかわり



Q モットーは？
 「日々成長」。今できることに全力で取り組んでくれたらと思う。卒団生も百名近くおり、中学、高校、大学などで野球を続け、多くの卒団生が中心選手として活躍している。甲子園

Q 指導方針は？
 「野球を楽しむ」。チームワークや礼儀などの大切さを身につけてもらいたい。

監督になって13年目。児童の減少で2014年から伏木ヤングファイヤーズと合併し、現在団員は20人になっている。高岡市では年数回の大会があり、2015年9月の新人大会で優勝。2014年もスポ少大会で準優勝、県大会ではベスト8まで勝ち進んだ。



監督 中沢 豊治さん



野球

伏木太田ヤングドリームズ

球児も輩出している。現在、少子化で児童数が減少しているが、野球を通じていろいろなことを経験し成長してほしい。ぜひ、「野球を始めてみたい」と思っている子がいたら入団して、みんなと一緒にグラウンドで思いっきりプレーしてほしい。

Q 子どもたちの様子は？
 今の子たちは、挨拶ができるし声も



中沢さんは大阪赴任となられても、週末は地元に戻り学童野球にかけられるその信念が、子どもたちを新人大会優勝へと導いたのではないのでしょうか。

バレーボール

太田レジェンド



監督 鞍田 悦子さん (左)
 コーチ 山田さん (右)



太田地区に女の子が活動できるスポーツチームがなく「子どもにもスポーツをさせたい」という保護者の願いで設立し、6年目になる。水、木、土の週3回が練習日で、1年生から6年生まで13人の団員がいる。

Q 子どもたちの様子は？
 今の子たちは、挨拶ができるし声も

出る。顔には出さないが負けず嫌いなので、勝ちたい気持ちに伝えられるよう私たちも努力は欠かせません。

Q 子どもたちに伝えたい思いは？

自分の本当の気持ちや言いたいことをきちんと相手に伝えること、目的をもって物事を行うこと、また、目上の人への言葉遣いや挨拶など学んでほしい。

Q 最近うれしかったことは？

設立5周年記念交流会で、意思疎通が難しかった初代の子どもたちの参加があり、感謝の言葉をもらったこと。号泣でした。



Q 児童のご家族の協力は？

練習は当番制で、試合では保護者に子どもたちの送迎や世話を任せさせている。

Q モットーは？

「あきらめずに根気よく」。誰でも必ず上手になると思う。



「大人も子どもと一緒に頑張り、一緒に成長したい」との思いを語るお二人に熱いものが感じられました。

サッカー

ピオセシ



監督 飛田 勝俊さん (右)
コーチ 東さん (中央)
沖野さん (左)



前任の監督から引き継いで11年目、最初は自分の子どもと一緒に参加していた。毎週月曜日に太田小学校グラウンド、雨の日には体育館で練習している。

Q 大変だと思つことは?

今の子どもたちは自分たちとホキヤブラリーが違うので、わかりやすくものを伝えようとついでに、単純な言葉になり、本当に言いたいことを見失つことがある。

Q 今の子どもを見ていて気になることは?

子どもの数だけ

いろいろな子がいる。おこがましいけれど自分たちの思つている方向に導かれたいと思う。

Q モットーは?

「大人も子どもも楽しく」。校区を超えて氷見や伏木からも来ており、子どもは女の子も含め35人を超えている。同好会らしく、純粋にサッカーを楽しんでいる。サッカー人口が増えたらいい。

練習では保護者やご両親の参加もあり、「これまでやってこられたのもサッカーが好きだから、今は11年前の教え子たちと同じ目線で会話できる」と嬉しそうに笑顔で話されていました。

食育クラブを通して…

食生活改善推進員 浜井 絹子さん

太田小学校には4年生以上が対象の6つのクラブ活動があります。この中の「食育クラブ」の地域特別講師に委嘱され、今年で11年目を迎えます。年間13回の活動で、私たち4人の食生活改善推進員は、ケガ等に注意して「包丁に慣れる」「炒める」「こねる」「焼く」「揚げる」を基本に、子どもたちの希望に沿って献立を考えながら取り組んでいます。

このクラブは人気があり、今年度のクラブ員は、男女半々の10人に担当の先生2人です。

選んだ理由を尋ねると「将来大学生活

などで家を離れたら必要」「男でも料理やらない」と、今の時代に合ったしっかりした答えにうれしく頼もしく感じましたし、子どもの頃に身につけたものは必ず役立つと思います。

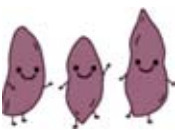
献立の中では、餃子、じゃがいもピザ、フルーツポンチ、野菜たっぷりラーメンなどが人気です。食材は太田特産のサツマイモや地場産野菜など、その季節にあったものを心がけています。

「夏休みに餃子を作ってお母さんに喜ばれた」という子どもの感想や、「うちの孫、食育クラブ楽しい」とのおばあちゃんの声を聞きます。



「食育」で子どもの頃から、身体にいい食べ物を選び、作る楽しさ、食べる喜び、命の大切さを学び、「いただきます。ごちそうさま」「ありがとう」と、いろいろな物

から命を頂いて生きているという感謝の気持ちがかかる子どもは地域の宝となります。子どもたちが豊かな心と正しい食習慣を身につけて、元気で成長することを心より願っています。



編集員からの子育てパパ・ママへの 推薦図書

子どもを伸ばす 自立のための家庭のしつけ

辰巳 渚・著/岩崎書店

現代の子どもに足りないと言われる自発性や継続性は、家の仕事や家族の仕事を、役割をもって一人前の人間としてこなそうとすることで身につく。そうした生活体験を多く与えて、子どもの手と足を動かして覚えさせることを「しつけ」と考え、3歳まで、6歳まで、10歳まで、と年齢に応じて、どんな場面でどんな言葉かけをすればいいのかをわかりやすく解説している。



忙しいパパのための 子育てハッピーアドバイス

明橋大二・著/1万年堂出版
太田知子・イラスト

母親の心をどう支えるか。母親を支え元気になる言葉や、母親に言っていない言葉、子どもが生まれたらお父さんにできる5項目など、家庭円満につながる子育てについて具体的にアドバイスしている。父親の積極的な子育てが父子の絆を生み、子どもが学校や社会へ出て行く自信を育むということなど。全編、見やすいイラストで描かれている。





思春期の今を過ごす子どもたちが悩みを抱えたときに、スクールカウンセラーの存在があることをご存じでしょうか？

今回、臨床心理士でもある山下さんに専門家ならではの視点から中学生の心を読み解いたお話を伺いました。

スクールカウンセラー
臨床心理士 やました い き こ
山下 委希子さん

カウンセラーになった きっかけ

中学生の頃、友人関係に悩み、自分の気持ち、人の気持ちをみつめることに関心を持つようになりました。

国が不登校の子どもの対応に力を入れるようになってきた折、大学生だった私は不登校の中学生が通う適応指導教室の学生ボランティアに申し込みました。先生でもカウンセラーでもない身近なお姉さんとして「子どもたちと話がしたい」と思いました。

気持ちを受けとめる

小学校の高学年くらいから中学生になると、周りから自分がどのように見られているのかが気になってきます。子どもたちはいろいろな人の気持ちを考えられるようにもなります。それは成長の証でもありますが、時に、どのように対応してよいかわからなくなり思い悩むのです。

子どもたちと話していて、例えばお母さんに相談したとき、どうしてほしかったのか、どのような答えを求めていたのか、どんな風に声をかけてもらいたかったのかと聞くと、まずは気持ちを聞いてほしかったと言います。

親は何とかしてあげたい、いい方法はないかと答えを探し、あるいはしよげて泣いていけば叱咤激励して

しまいがちです。

けれども子どもたちは、どうしてよいか分からないこのモヤモヤとした気持ちを一旦受け止めてもらいたいのです。そうすることで初めて自分で次を考えることができるのだと思います。

一緒に becoming

悩みを抱えていて一番つらいのは孤独を感じるときなのかもしれません。それは子どもだけでなく大人もまた同じです。「自分はひとりではない。自分を心配してくれる人がいる」と思えるだけで、ちょっとほっとしたり、勇気が湧いてきたりします。

悩みを解決するまでにはそれなりに時間はかかりますが、その間は（休養に徹することも含め）踏ん張らなければいけません。踏ん張るときに母親だけでなく父親や他のご家族が寄り添ってくれていると分かると、それは心の大きな支えになると思います。

黒子として

私たちカウンセラーの非常に重要な役割は、子どもや保護者からの相談への対応と、そしてもう一つには先生方との話し合いがあります。

学校現場では日々様々なことが起こり、対応に迷うことも少なくありません。カウンセラーは子どもの心

と発達についての知識と経験をもとに校内での話し合いに参加させていただき、チームの一員として子どもたちを見守っています。

家庭での様子に不安が感じられるときは気軽に相談してください。もしもどこに相談したらよいのかわからない場合は、高岡市の「少年なんでも相談」にお電話してみてください。必要に応じて適切な相談機関をご紹介します。

スクールカウンセラーにできることはわずかです。しかし、「一緒に becoming 考え寄り添う人」として知っていただければよいなあと思います。また、相談内容に問題の大小は関係ありません。カウンセラーに相談することは身近なこと、と考えていただくと嬉しいのです。

◆取材を終えて

大きな瞳とまっすぐな眼差し、そして言葉のひとつずつを丁寧に選び足して、お話しされていくところが印象的な方でした。

20年にわたるカウンセラーというお仕事に真摯に取り組まれてきたからこそののでしょう、取材の中で紡ぎ出される言葉は優しく、けれど力強く心に響きました。

子どもの成長を見守る一人の親としてカウンセラーに相談という選択を身近に感じることができました。

セピア色の 写真から

「福祉を通して、

人に優しさを伝えた女性」

幸塚サヨ子さん

(一九四一年〜二〇一三年)



の長年にわたる功績が認められ、平成十七年に市民功労者表彰を受賞した。ボランティアという言葉も定着していない頃、「奥さん、いつも留守にして何しとんがけ」という周囲の声も聞かれたが、「社会のお役に立ちたい」という強い思いでボランティアに邁進し、そのうち周りの理解も得られるようになった。

慣れない環境に嫁いでも、いつも笑顔で坊主※2の仕事とボランティアを両立させ、時々「今日は御堂の畳を拭いてきたよ」と明るく話したという。

「かたかグループ」の仲間にはサヨ子さんを「いつもにこにこして、とにかく優しい人。あの方ほど人への気配りをされる方はいなかった」と思ふ。「人のお世話をし、皆さんに喜んでいただくことが一番うれしいこと」とおっしゃって、その言葉にまさしくあの方の生き方が表れていると思えます。周りを明るくする大らかな方でした」と語った。

「保護司として」

人の人生にかかわる責任を担う保護司を、二十五年もの長きにわたって続けてきたことについて、息子さんは「母は守秘義務を守り家族にも内容を話しませんでしたが、『保護司は、様々なボランティアを経ながら最終的にたどり着いた社会奉仕活動』と言って大切に思い、使命を感じていたようです」

と語っている。その功績に対して法務大臣表彰を受けた。

「母として」

食事のときは必ず「生き物の命を頂くから手を合わせるんだよ」と「おかげさまで」という感謝の心を教えていた。また、お子さんの水泳記録会や少年サッカーなどでは、当時としては珍しく、保護者として率先して祝賀会を催したり、昼食の世話方をしたりした。

「人生の集大成として」

平成二十一年、乳がんが見つかったが「自分が辛い顔をしたら、周りの者が辛くなる」と周囲や家族にも一切、苦しい顔を見せなかった。

平成二十五年五月、足元も心もないなか、坊主として親鸞聖人七五〇回大遠忌法要※3をお勤めし、六月には仲の良い四十年来の友人夫婦たちと、ステッキをつけて上高地へも行った。身体はおぼつかなかったが、気持ちでは負けていなかった。サヨ子さんが亡くなったのはその年の十月だった。「これまでの活動はもちろん、孫の入試も見届け、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要をお勤めすれば人生の集大成ができる」と、自らの言葉どおりに全うした人生だった。

※1保護司(ほごし)：犯罪者などの改善・更生を助け犯罪予防のための保護観察に当たる者。社会的信望などを有する民間人から法務大臣が委嘱する。

※2坊主(ぼうもり)：浄土真宗では住職の妻の事をいう。

※3大遠忌法要(だいおんきほうよう)：五〇年毎の節目にあたる親鸞聖人の年忌法要。

かたかグループの小谷千代子さんと高橋睦子さん、幸塚昭昭さん、昭英さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

昭和十六年六月八日、美術商を営む中島與一さんの四人兄弟の次女として高岡市横田町に生まれた。二十四歳で結婚。嫁ぎ先は伏木の由緒ある寺、浄土真宗本願寺派「入報寺」で、教師であつた夫の憲昭さんとは当時は珍しい恋愛結婚により結ばれ、一男一女をもうけた。

定重要文化財「勝興寺」をはじめ伏木の史跡名勝や町並みを観光客に喜んでいただくことを信条に案内してまわった。「楽しかったよ。ガイドをしてもらって良かった、また来ますよ」の言葉を励みにしていた。

平成十八年には「比奈の会」の会長として当時の小泉首相を伏木北前船資料館に案内した。そのときは親しい友人に「緊張したけど、感動した」と語っている。

勝興寺の改修工事に伴い、寺を中心に観光客が増えガイドの需要は高まった。「学習を重ね、多くの方が伏木の町を二度、三度と訪れてくださるようにおもてなしの心を大切に笑顔で伏木を案内します」と『社協だより』でも述べている。

「観光ボランティア比奈の会」

昭和六十一年、志摩まちさんを代表とする伏木地区ボランティア「かたかごグループ」が設立され、その中の観光ガイドボランティア「比奈の会」に籍を置いた。伏木の観光ガイドブックを手作りすることから始め、定期的に学習会を開いて町の歴史を学んだ。また県内外の寺院をまわり、そこでのガイドの様子をみて工夫を重ねた。国指

サヨ子さんの活動はその他にも、保護司(※1)、食生活改善推進員、赤字奉仕団、万葉歴史館解説員(和草)と多岐にわたる。

「社会のお役に立ちたい」

食生活改善推進員や「比奈の会」で



高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

多職種ネットワーク高岡

地域の福祉ニーズが多様化・複雑化する中、様々な福祉課題の解決には従来の福祉の枠を超え、権利擁護や福祉教育など、司法や教育、医療をも含めた専門職種の相互の問題も見えてきます。

この会では、支援を必要としている人の課題を持ち寄り、その解決方法について会員相互の支援や知恵や知識を出し合い、その中から出てくる社会的、福祉的課題など話し合っています。誰もが住みやすい地域にするために、多職種のネットワーク力はたいへん頼もしく有意義です。もっとネットワークが広がることを願っています。関心のある方一緒に活動しませんか。

代表：長守 信子

富山精神療法研究会

この会は、心の相談に携わる専門家が心理(精神)療法についてのスキル向上を目指し、相互に研修し合う会です。会員は県内の病院や学校、相談機関などで働く臨床心理士と医師です。

会員たちは、年齢も育ちも異なるクライアント(相談に訪れる人)と日々お会いし、心を尽くして向き合っていますが、心という見えないものを扱うだけに独りよがりにならないことが重要だと感じています。そんな中、月1回研究会に出席し、心理療法の基本を押さえつつ新たな考え方とも出会うことで、日頃の自分を見直し心新たに明日へ向かう機会となるよう活動しています。地道ですが、これからも会員一人一人が揺るぎなく人々の心のケアに携わることが出来るよう、切磋琢磨していきたいと考えています。

代表：谷野 幸子

あなたのグループも男女平等推進センターに登録しませんか？

男女平等推進センター活動登録団体になると、センターをグループ・団体の拠点として活用できます(交流スペース、活動用ロッカーの無料利用等)。

センターのホームページで、登録方法や、上記以外の登録団体・グループも紹介しています。

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は、男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

逸見 王紀子

今の時代や暮らしに目を向け、高岡の文化や歴史を知る良い機会となりました。いろんな方と出会い、貴重な経験をさせていただきました。至りませんでしたが感謝申し上げます。

小林 瑞穂

経験、知識とも豊富な他の編集員さんたちとの会議は楽しかったです。他県出身ならではの目線で高岡の良さを再確認しました。良い経験をありがとうございました。

市民編集員の皆さん、2年間本当にありがとうございました。この号で皆さんの任期が終了し、次号からまた新たなメンバーでお届けします。

浜井 絹子

編集員、地域で活躍されている若い世代の方と共有時間を持てたことに新しい発見があり感謝しています。まずは健康で「少子高齢化」社会に参画していきたいと思っております。

室谷 弘子

みんなで協力して紙面を作り上げていくのはとても楽しい作業でした。また、取材や編集会議を通して多くの学びがあり良い経験になりました。ありがとうございました。

編集
後記



ありて キャラクターデザイン：山崎 可菜さん(高岡市在住)

高岡市の取り組み紹介 ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定

高岡市では、ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)が実現した社会に向け、仕事と生活の両立に配慮した働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる事業所を、ワーク・ライフ・バランス推進事業所として、平成24年度から認定しています。平成27年度は、新たに次の事業所を認定しました。

幸塚汽力工業(株)/小間印刷(株)/(株)商工レストラン/(株)谷口/(株)早木工業/ホクセイプロダクツ(株)/北陸エレコン(株)
(50音順に記載)



「ありて」の感想をお寄せください

- ◆ QRコードから
 - ◆ E-mail/gec@city.takaoka.lg.jp
 - ◆ FAX/0766-20-1815
- いずれかの方法でお願いします。

※「ありて」のバックナンバーは、下記のホームページでご覧いただけます。

ホームページ/
<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>